

漢詩神奈川

第 29 号

神奈川漢詩連盟
事務局

神奈川県海老名市
浜田町16-9

TEL-FAX
046-233-7641

発行人 三村公二
編集人 高津有二

創立十五周年記念日を迎えるにあたって！

神奈川漢詩連盟会長 三村公二

この十月十四日に神奈川漢詩連盟は創立十五周年を迎える。五年前の十周年会報特別記念号を取り出してみているが、「漢詩を学ぶ、漢詩で遊ぶ」のモットーの下で活躍する諸先輩方に混じって当時は端の方にいた若手の皆さんが、現在は連盟の中心となつて活躍していただいているのがよく分かつて非常に興味深い。



三村公二会長

一方、この特別号には名前も写真も無いが、十周年後に入会して早くも活躍目覚ましい方々もおられる。例えば、神辞会の七絶推敲表を作った十期生十期会の葛清昭さん、神辞会で電子詩語集を整備し、鑑賞会AのZOOMホスト役もしている十一期生の川久保普美子さん、鑑賞会Cのホスト役を務め、H

Pの担当責任者となつて早々に内容を一新した十二期生干支会の五嶋美代子さん、台湾旅行を機に二期三水・七歩会に入会し、各種漢詩大会で入選・入賞を続けている高橋純子さんなど多士済々である。このように人材が脈とつながっているのが神漢連の何よりの強みであろう。

このコロナ禍の下で迎える十五周年記念行事はいろいろな制約が有り、企画委員会の皆さん方のご苦勞は大変なものがあるが、多額のご寄付もいただいている事でもあり、そのご期待に応えられるような内容の行事になつてほしいと願っている。幸い、オンライン吟行会、中国人会員の仲間とのネット交流会、市川桃子先生のご講演をYouTubeにアップするといったように、対面での開催ができない場合にも備えた、十周年の時には考えられなかったような斬新なアイデアの行事案が揃っている。

その他の企画案の中で、特筆すべきは「神奈川清韻第三集」の発刊である。第二集が創立八年の時だから実に七年ぶりのことになる。百四十人の方が投稿されているが、編集委員会が七絶推敲表を使った平仄チェックなどの推敲を済ませた後、古田光子舎友に批正を、玉井幸久舎友に監修をお願いした。私の好きな漢詩アンケート、岡崎前会長に登場願った漢詩自由訳コンクールも面白い。自詠自書展も開かれる予定だし、石川忠久先生に揮毫をお願いしたエコバッグとクリアファイルの頒布計画が進んでいるなど相変わらず盛りだくさんである。十月を待たずにお手元に届くものもあるが、楽しみに待ちたいと思っている。

一方、定常の各種行事はコロナ禍にもかかわらず順調に実施されている。初心者入門講座には二十名(うち一名はメルボルンから)の応募者が有り、「密」を気にしながら寺小屋方式の指導を実施し、うち十五名が神漢連に入会して十五期生として活躍する事になった。高芝麻子先生による漢文法基礎講座も前期が終わり、後期講座に入っている。漢詩は漢文が基本だと再認識する事ができ、受講者が学習を自分の詩に活用しようと頑張っている姿を見て、この講座を企画して良かったと喜んでいる。又、鑑賞会Cの「七言絶句ここから一步・注釈(下)」も市川桃子先生の監修を経て十月には発刊の運びになりそうである。皆さんの頑張りに感謝申し上げます。

十五周年記念行事特集 ―楽しく盛大に祝おう―

創立十五周年記念行事の基本方針

事務局長 高津有二

神奈川県漢詩連盟は二〇〇六年十月に創立され、本年創立十五周年の節目の年を迎えました。創立以来「漢詩を学ぶ、漢詩で遊ぶ」のモットーのもと、諸先輩のご尽力で種々多様な活動を立ち上げ、石川忠久先生から「神奈川方式」とお褒め頂いた活動を着実に継続してきました。また、昨年からのコロナ禍を契機として、オンライン方式を併用した新時代へ対応した活動を模索していることはご承知の通りであります。

創立十五周年を記念して、いくつかの楽しいイベントを開催したいとプロジェクトチームを立ち上げ、検討して参りました。その概要は下記に示す通りであります。

また、イベントを成功させるために皆様のご寄付をお願いしたところ、創立十周年の時を大きく上回る浄財をお寄せ頂きました。

執行部一同、謹んで厚く御礼を申し上げます。十月十四日(木)の記念式典を中心に種々の記念イベントを皆様全員で盛り上げていく所存ですので、ご支援、ご協力を宜しくお願い申し上げます。

創立十五周年記念行事の概要

創立十五周年記念行事関係は、大きくは以下の三種類の項目からなります。

- 一. 記念式典と記念漢詩講演会(市川桃子先生)：創立記念日である十月十四日に神奈川県近代文学館ホールにて開催します。
- 二. 十五周年を祝つての各種記念行事の実施
- 三. 神漢連のネット対応力の強化推進：十五周年記念HPの立上げ、神漢連チャネル(YouTube)の開設、ZOOMの活用。

特に、前記二及び三項については、昨年十月に「十五周年記念行事企画委員会」を発足させ、比較的若手の会員に役員も加わり、「漢詩を学ぶ、漢詩で遊ぶ」をモットーに、多くの会員がワクワク楽しく参加できる行事の企画と推進を行ってきました。以下の行事は、本会報の三頁〜八頁に内容が記されています。

・オンライン吟行会(十月十二日)：「吟行のテーマ」とその画像・説明文、韻字の選択などがメールで送られてきます。これに従い一句を送付頂き、その後ZOOMで皆様の「柏梁体連句」発表、先生の選評、参加者との懇談を行ないます。

・ 中国人会員の仲間とのオンライン交流会：「現代の中国漢詩と日本漢詩」のテーマのもと、神漢連の中国人会員(在中国本土)及びその仲間達数名と、ネットで交流を行います。

・ 記念グッズの制作頒布(十月)

① エコバッグ：表に石川忠久先生筆の王之渙「登鸛鵲樓」、裏に鈴木栄次氏(会員)の画を配す。頒布価格は千円。

② クリアファイル：表に石川忠久先生筆の蘇軾「春夜」、裏に鈴木栄次氏(会員)の画を配す。A4判。頒布価格は十部で五百円。

・ 漢詩の自由訳コンクール(六月末締切)：漢詩を、いつもの書き下し文でなく、現代の日本語に訳すコンクールです。

・ わたしの好きな漢詩アンケート(六月末締切)：果たして神奈川県漢詩連盟の会員が一番好きな漢詩は何でしょうか？

・ 自詠自書展：十月二十日(水)〜二十四日(日)に神奈川県民ホール第三ギャラリー(地下一階)で行います。

・ 神奈川清韻第三集の発刊(年内)：第二集発刊以来、七年ぶりの発刊。百四十首の寄稿があり、全会員に一冊が無料で配布されます。

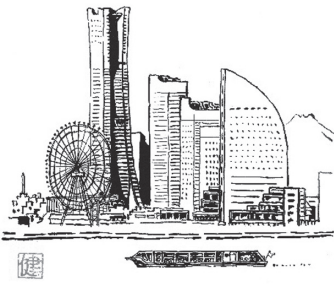
・ 「七言絶句ここから一步(下)注釈」の発刊(九月)：下巻(下平声韻)は、三百五十四首からなります。詠物を主体とした七言絶句の鑑賞・作詩に大いに役立ちますので、是非ご購入願います。一冊千五百円。(香取和之)

記念式典

十月十四日に神奈川近代文学館ホールにて、令和三年度定期総会に引き続き、午後一時半～三時に行ないます。是非御参加下さい。

- 一. 開会 水城 副会長
- 二. 式辞 三村 会長
- 三. 来賓祝辞 石川忠久先生
- 全日本漢詩連盟会長 窪寺 啓先生
- 東京都漢詩連盟名誉会長 高津事務局長
- 四. 神漢連十五年の歩み 香取事務局次長
- 五. 記念行事の概要
- 六. 感謝状授与
- 七. 漢詩自由訳コンクール表彰式
- 八. 閉会 中島 副会長

尚、当初予定していたZOOMによる会員へのオンライン配信は、現地のネット・電波状況の制約により中止と致します。是非、近代文学館ホールへご来場下さい。(香取和之)



記念式典に引き続き「漢詩講演会」!

―市川桃子先生―
『三国志』の英雄曹操の悲哀

市川桃子先生からは、演題と共に以下の概要を頂いています。

『三国志演義』という小説は「仁徳の人」劉備と「奸雄」曹操の対比を軸に展開します。「につくき曹操め」というわけです。ところで魏の曹操は、大軍を率いる武将であると同時に、有数の漢詩人でした。曹操本人の作品には、彼が生きた時代とその時々への思いが、曹操の主観そのままに詠われています。今回は、曹操の詩を読んで、その心の内を知りたいと思います。

市川桃子先生には、過去三回、神奈川県漢詩連盟のために講演頂いています。三回とも今回と同じく「神奈川近代文学館ホール」です。第一回は平成二十九年に「蓮の花の運命」、第二回は平成三十年に「遠い友 心の旅」、第三回は令和元年に李白「白髮三千丈」です。三回とも、我々素人には思いもよらぬ視点で課題に切り込み、またパソコン上の多くのイラストを駆使して、判り易い説明で大好評でした。市川先生のお話しが待ち遠しいところです。

(香取和之)



市川桃子先生

十五周年記念行事ホームページ

十五周年記念行事ホームページは、今年四月に開設した。同じく五月にリニューアルした神奈川県漢詩連盟ホームページの中に組み込まれている。図らずもコロナ禍の中、オンラインの活用が社会の大きな流れとなったことと軌を一にすることとなった。対面での活動や情報の伝達が難しい中、ホームページの活用は少なからず十五周年記念行事に寄与することができていたのでないかと思う。

例えばこのホームページでは、各種応募についての情報を掲載してきた。また、オンライン吟行会の作品はその都度スライドショーで公開しているがこれからは様々な行事の結果を順次掲載することになるだろう。

コロナ禍が去った後も、十五周年記念行事ホームページでの活動が、これからの神奈川県漢詩連盟の更なる前進への一助となることを願っている。そのためにも柔軟な姿勢で会員の声を吸い上げ、使ってもらえる、使って楽しいホームページであることを目指していきたい。

(五嶋美代子)

漢詩を学ぶ、漢詩で遊ぶ

神奈川県漢詩連盟 15周年記念行事

TEL.FAX046-233-7641
〒243-0412神奈川県海老名市浜田町16-9

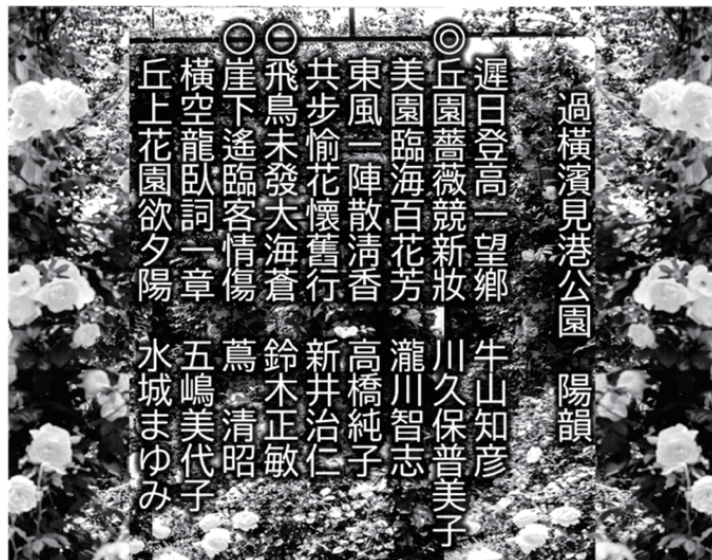
オンライン吟行会 —多くのの方々の参加を—

吟行会のご経験はおありでしょうか。神漢連のホームページでこれまで発行された会報を読むことができます。第二十六号の三ページに第十四回吟行会、大磯吟行会の記事があります。令和元年十一月に行われたものでした。実地吟行会の楽しさが伝わってくる記事です。是非ご一読ください。次の会報二十七号では三村会長の巻頭言が「心を合わせてこの難局をのりきろう」となり、会報二十八号では牛山執行理事の「Go To ZOOM」の記事に繋がっています。

ZOOMはインターネットを介した会議システム、つまりオンライン会議の仕掛けです。昨年度からこれを使った漢詩鑑賞会やサークル定例会が頻繁に行われるようになり、運営委員会など連盟の活動の多くの部分も占めるようになりました。ZOOM会議に参加される方も着実に増えてきました。困難を乗り越えて始められた方々、継続してサポートしてこられた方々に感謝です。

コロナ禍でなかなか出かけられない昨今、神漢連のホームページとZOOMを利用して自宅のパソコンやスマホから吟行会を楽しもう、という仕掛けがオンライン吟行会です。ZOOM利用者の増加と十五周年記念行事が仕掛け作りのきっかけですが、コロナ以外に

も「出かけられない」「参集できない」原因はいろいろあります。オンライン吟行会はどこからでも参加できます。吟行地に制限はありません。仮想の吟行地を設定して、その場にいる自分を想像しつつ七言一句をパソコンで投句、という感じですが。いつか「月面吟行会」など企画されるかもしれませんね。



(吟行会企画委員会による最初の試行)

オンライン吟行会を具体化するための企画委員会が新井リーダーの元で活動中です。メンバーは八名です。これまでに吟行会企画委員だけでの試行、十五周年企画委員での試行、運営委員での試行と範囲を広げ、六回目の試行(四月二十六日)からはメールアドレスを

登録されている会員全員にオンライン吟行会をご案内しています。この原稿を書いている時点での最新の吟行会は六月二十八日で、九回目の試行、参加経験者は四十二名になりました。十期生以降の若い年次の漢詩サークルのメンバーが十名含まれていて、優秀賞に選ばれた人も複数出ています。詩の感性はサークル年次には関係ない、と言うことでしょうか。試行の吟行会での優秀賞で得られるものは名譽だけですが、本番ではしっかり賞品も付いてきます。

これまでの試行には会長、副会長はじめ竹林舎の先生方にもご参加、ご指導をいただいています。複数投句を認めてはどうか、飲食を認めてはどうか、など楽しいご提案もいただきました。早速試行に取り入れ、大変好評でした。ご指導の先生の優秀句選定に加え、参加者の投票により人気句を選ぶ、という試みも始めたところです。

十五周年記念行事オンライン吟行会の本番は十月十二日です。

メールアドレスを登録なさっている会員の方々全員に案内メールを差し上げます。ぜひ予定表に書き込んでいただき、当日は参加していただくようお願いいたします。

なお、自宅から参加できる「郵送吟行会」も併せて開催されます。同封されている案内書をご参照ください。
(薦 清昭)

記念グッズいよいよ頒布開始!

十五周年はエコバッグとクリアファイル

今回は、全漢連会長の石川忠久先生の揮毫と神漢連の鈴木栄次氏の水墨画をあしらった二つの記念グッズを制作いたします。

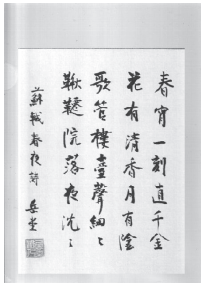
まずレジ袋の有料化に伴い、誰でも持ち歩くようになった感のあるエコバッグです。王之渙の「登鶴鶴樓」を選んだのは、よりよい景色を目指して更に上に登ろうとする姿勢が現状にふさわしいと考えたからです。

素材はポリエステル、色はベージュ、横40cm×縦38cm。たためる、手ざわりの良い製品。頒布代金は一個千円(送料は別途)です。



書類の運搬・分類整理に便利なクリアファイルは、蘇軾の「春夜」。これは「春宵一刻値千金」の華やかなイメージが明るい未来を予感させるから選びました。

A4縦、0.2mm厚のスタンダードタイプ。一セット十枚で五百円(送料は別途)です。



(写真はイメージで、まだ確定したものではありませんのでご承知ください。)

記念行事等の会場で頒布いたしますが、都合でおいでになれない方は、九詩期会山口までお申し込み下さい。

Eメール shinkaren1503@gmail.com

エコバッグ十個以上、クリアファイル十セット以上の場合には送料無料といたしますが、それ以下の場合には送料をいただきますので、あらかじめご承知下さい。

エコバッグ用の石川忠久先生と鈴木栄次さんの作品をご覧ください。

(山口幸雄)



自詠自書展 過去最大規模!

一ぜひびご高覧をー

今年の自詠自書展は、神奈川県漢詩連盟創立十五周年記念の月に合わせ、十月二十日から二十四日まで、神奈川県民ホール第三ギャラリーで行います。昨年中止を余儀なくされたため、今年は従来よりも広い会場を選び、昨年(五回展)の作品十七点と今年(六回展)の作品二十点、さらには『歩こう神奈川、漢詩八十景』の中から半切十点和色紙二枚を展示します。また今年には新企画「色紙コーナー」で十二点の作品を展示する予定です。漢詩と書の雅の世界をぜひご高覧ください。

書は「筆意の芸術」とも言われます。筆意とは筆を運ぶ時の心構えのこと。それが文字に気迫や生氣を生み出します。漢詩を学んでいると、時代背景や歴史、余韻の効果等、書との共通性を多く感じます。漢字一字に込められた想いを筆に託するのが書、詩に託するのが漢詩と言えるのではないのでしょうか。

昔、野口英世博士の母シカさんが懸命にたたためた文字を見て胸を打たれ、上手だとか、型がどうかとかではなく一生懸命さが人の心を動かすのだと気付きました。漢詩や書も自分の気持ちや一途さが相手に伝わるのが肝要であり、そこに自詠自書の魅力があると思います。これからも本連盟のなかに自詠自書の輪が広がっていくことを期待します。

(上田尤子)

白日依山盡
 黃河入海流
 欲窮千里目
 更上一層樓
 登鶴鶴樓
 忠堂書

中国人会員の仲間との オンライン交流会

神漢連の中国や台湾への海外漢詩ツアーでは、必ず現地の漢詩人たちとの交流を重ねてきました。しかしコロナ禍が続く、海外渡航もままならぬ中、当然、日本以外の漢詩世界との交流も途絶えています。

昨年来、ZOOMやYouTubeといったネット対応を研究・実践してきた神漢連としては、この分野でもネットを使って日本側と中国側を結んでオンライン交流会を開催し、会員の皆様にも広く視聴して頂くと考えています。

当初、ZOOMを使えば簡単に出来そうだと考えていたところ、米中摩擦の影響か、なんと計画途中に中国本土ではZOOMが使えなくなっていました。そこで、試行錯誤の結果、中国版ZOOMシステムを利用したオンライン交流に挑戦して、その様子を録画したものを神漢連ホームページなどからYouTubeを通して会員の皆様に配信することと致しました。

もう一つの難関は、以下の中国側参加予定の皆さんとの日程調整でした。仕事を持つ多忙な現役の方々ばかりが、都合をつけて参加して下さいます。(敬称略)

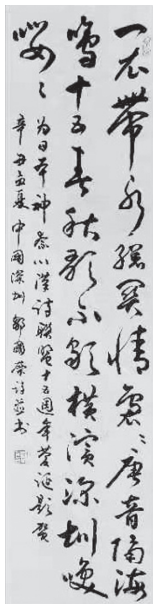
- ・ 王雨劍(北京市)
- ・ 鄒國榮(深圳市・深圳詩詞学会会長)

- ・ 練歆(廈門市・廈門詩詞学会会長)
 - ・ 陳偉強(廈門市)
 - ・ 陳興(西安市・神漢連会員)
- 二〇一八年の西安への訪問をきっかけにその後神漢連の会員にもなった陳興さんが、今回の中国側参加者の皆さんを全国から集めてくれました。紙面を借りてそのご尽力に感謝致します。

テーマは「現代の中国漢詩と日本漢詩」。事前に交換している参加者の漢詩を題材に、中国漢詩と日本漢詩とのそれぞれの特徴や違いを認識し合い、相互の理解・漢詩への理解を深めたいと考えています。

対面での交流会は経験があるものの、オンラインという形での交流会が果たしてどんなものになるのか、誰もが初めてなので楽しみです。上手く出来ない部分もあるかもしれませんが、どうぞその辺は大目に見て頂きまして、皆さんパソコンやスマホから交流会の様子をご覧になって下さい。

コロナに負けずに、交流の輪を広げて継続していくことは大変意義深いことと考えています。



(鄒國榮さんは書家でもあり、自詠の祝詩を揮毫して寄贈してくださいました。神漢連の自詠自書展にも展示予定です。)(牛山知彦)

神漢連チャンネル開設 ー YouTubeビデオが身近にー

YouTubeの神漢連チャンネルが発足し、視聴可能な状態になっています。管理者は神辞会世話役が兼務しています。

現在「漢詩鑑賞朗読」「行事情報」「神辞海ツールの使い方」「ZOOM関連情報」の四つの再生リストに分類された九つのプログラムが視聴可能です。

YouTubeは鑑賞用のものも多いですが、音声説明付きの動画はさまざまなことへの理解を助けてくれます。また、見たい箇所を繰り返し見ることが出来ますので「使い方の説明」に適しています。

神漢連ホームページの「有用リンク」からこのチャンネルに入ることができ、全てのYouTubeプログラムはホームページへリンクしています。どちらもインターネット経由で視聴されるものですので、今後とも連携を維持してゆきます。ご意見、ご要望等お寄せください。



QRコード
(スマホでの視聴にご利用ください。)

(蔦清昭)

「神奈川清韻第三集」発刊の予定
― 百四十名の会員が寄稿 ―

神奈川漢詩連盟の漢詩集「神奈川清韻」第一集は平成二十三年に故中山清会長のもとで発刊されたが、八十八首の寄稿があった。第二集は平成二十六年に岡崎満義前会長のもとで発刊され、百三首からなる。

「神奈川清韻」の命名は中山先生によるものだが、先生は第一集の発刊を自賀しての玉韻にて、「玉璞期すべし琢磨の積、鷗盟偕に樂しみて雅懐全し」と結んでいます。第二集では、岡崎前会長の「漢詩を親しみ易いもの」という考えのもとに、詩稿の後に作詩の動機や、詩の誕生した状況等について作者の解説を付けることにした。

今回七年ぶりに、「神奈川漢詩連盟創立十五周年」を記念して発刊される第二集では、これらの理念を継承しつつ、以下の方針で詩集作成をすすめており年内発刊の予定である。

- 一、新作に限定せず、この七年間で思い出に残る漢詩、是非とも記録に留めておきたい漢詩を寄稿する。
- 二、七言絶句を原則とするが、他の詩型でも可とする。また、これまでの全国漢詩大会での入賞作、入選作も可とする。
- 三、漢詩サークル会員については、指導講師が作品の批正(平仄、造語、漢文法上の修

正等)を行ったものを寄稿する。

寄稿要請については、各サークル例会での周知、全会員への「漢詩投稿のお願い」の書状郵送、神漢連ホームページでのPR等を行った。その結果、サークル会員百二十首、サークル外会員二十首、計百四十首の多くの詩が寄せられた。各人にとっても連盟にとっても、思い深く読み継がれる詩集になると確信している。尚、十五周年記念には多くの方々からご寄付をいただき、その結果、各会員には「清韻第三集」一冊を無料で配布する予定である。

「神奈川清韻第三集」の発刊にあたっては、全日本漢詩連盟会長の石川忠久先生と東京都漢詩連盟名誉会長の窪寺啓先生から、心温まる祝辞を頂き、深く感謝申しあげます。

本誌集の編集・発刊は、監修・玉井幸久、編集委員長・故城田六郎、副委員長・古田光子の諸先生のもと六名の編集委員で行っている。編集委員会にて、各詩の造語や漢文法上の誤りの有無の再確認と一部の添削の後、古田先生が批正し、さらに編集委員他が分担して添削した。

尚、本誌集には、今年前期に行われた「漢詩の自由訳コンクール」、「私の好きな漢詩アンケート」の結果の要約を添付し、会員の「漢詩を学ぶ、漢詩で遊ぶ」活動の一端も合わせて紹介している。

(香取和之)

「だれでもわかる 七言絶句」から一步
(下) 佩文齋詠物詩選抄・注釈」発刊す

「七言絶句」から一步(上)は「佩文齋詠物詩選七絶抄」の上平声韻三〇四首を対象にした注釈であり、令和元年六月に刊行されて多くの方々の好評を得た。同下巻は、引き続き下平声韻三百五十四首の注釈である。

本詩集は、神漢連のベテラン会員(故城田、桜庭、住田、故三上)の講師陣に、新たに中島、新井、香取が加わり、平成二十九年末から令和三年初頭にかけて講義した資料(詩白文・読下し・語釈・通釈、詩人略伝)に基づいている。尚、監修は明海大学名誉教授の市川桃子先生が快く引き受けて下さった。

本詩集は上巻と同様に、漢詩鑑賞の面では、日月山河・四季などの自然から、建物・書画・楽器・寺仏などについての代表的詠物詩を鑑賞することができる。作詩の面では、自分で何か詠物の詩を作る時のお手本となる。また本詩集では、各首は上平声の韻毎に並べられている為、各韻の代表的作例を学ぶ事ができる。このように本書は七言絶句の鑑賞と作詩に大いに役立つ図書であり、是非とも座右に備えていただきたい。頒布価格 千五百円。

(香取和之)

神奈川清韻

だれでもわかる
七言絶句「三から一步」
(下)
佩文齋詠物詩選七絶抄
注釈

わたしの好きな漢詩アンケート結果

杜甫「春望」、李白「早發白帝城」が1、2位

「わたしの好きな漢詩アンケート」には、46人の会員から回答が寄せられました。予想より回答数が少なく、ちよつと残念でした。

コロナ禍でもあり、ホームページから応募用紙をダウンロードして、メールに添付して送ってもらう方法を中心に募集しましたが、会員の中にはメールなどが苦手の方もまだまだ多いようで、郵送も可としてはいましたが、配慮が足りなかったことを反省しております。

左表のとおり、上位には杜甫や李白、など有名な詩人の有名な詩が並び順当と云っていいでしょう。しかし今回の大きな特徴は、あまり人気が集まらず、46人から延べ92首というたくさんさんの詩が寄せられ、詩人は延べ53人と、多様な詩が寄せられたことです。

順位	点	詩題	作者
1	16	春望	杜甫
2	10	早發白帝城	李白
3	9	送元二使安西	王維
3	9	述懷	魏徵
5	7	飲酒 其五	陶潜
5	7	江南春	杜牧
7	6	山行	杜牧
7	6	江雪	柳宗元
7	6	對酒	白居易
10	5	哭孟寂	張籍
10	5	五柳先生傳	陶潜
10	5	寒梅	新島襄
10	5	尋胡隱君	高啓

順位	作者	得点
1	杜甫	38
2	李白	32
3	陶潜	21
3	杜牧	21
5	白居易	15
6	王維	13
7	蘇軾	12
8	魏徵	9
9	高啓	8
10	大正天皇	6
10	柳宗元	6

これは会員には書や詩吟の方が本来の趣味だという人も多く、それぞれの多様な立場から「好きな」漢詩を選んでいただいた結果だと思われまふ。会員の漢詩に対する興味の裾野は大きく広がっているのです。

詳しくは、ホームページに公開されている「神奈川県漢詩連盟 わたしの好きな漢詩」をご覧ください。投票されたすべての詩と、その好きな理由を読むことができます。

なお投票された方の中から抽選で20名の方に15周年クリアファイル(5枚セット)を差し上げます。当選の方には九月中に連絡します。(山口幸雄)

漢詩自由訳コンクール

最優秀作など決定!

漢詩自由訳コンクールには、課題詩「春曉」に23人23首、自由選択詩に23人32首の応募がありました。

審査は八月四日、岡崎前会長を審査委員長、三村会長、中島副会長を審査委員として実施され、次のとおり受賞作が決定しました。

課題詩部門(孟浩然「春曉」)

最優秀作

春の夜明けに

春の朝日は夢の中
遠く近くに鳥の声
昨夜は嵐が吹き荒れた
咲かせた花も散りぬるを

大谷明史

優秀作

特別賞

室橋幸子、犬飼勇風、松本祐輔

柴本信子

自由選択詩部門

最優秀作

嶋内隆行

酒匂川の畔の村酒
富士の霊水流れるほとり
秘伝のどぶろく醸す村
酒杯を重ねて日が暮れた

金を惜しむは愚かなことよ

・原詩「酒匂川畔村酒」は故城田六郎氏の「みやざき2020全国漢詩の祭典」文部科学大臣賞受賞作。

優秀作

高津有二「照鏡見白髪」

山口幸雄「子夜呉歌」

佐藤三緑「新嫁娘」

特別賞

住田笛雄「八秩偶成」

入賞作品及びそれ以外の応募作品もすべてホームページからPDFファイルをダウンロードして読むことができます。どうぞご覧ください。(山口幸雄)

神奈川県漢詩連盟会員 一覽

令和三年七月末現在 二百二十八名

Table of members with columns for name, address, and other details. Includes names like 相原 一輝, 青木 美憲, 赤間 嘉幸, etc.

十五周年記念行事協賛金寄付者氏名一覽

Table of donors for the 15th anniversary commemorative event, listing names and amounts.

多大なご支援有難う御座いました。記念行事に有意義に活用させて頂きます。 会長 三村公二

連盟の行事

コロナ禍にめげず活動継続

事務局長 高津有二

令和二年度は、コロナ禍に明け、コロナ禍に過ぎた一年でしたが、会員の皆様には各種の制約をもとめせず、着実に活動を継続して頂いたことに厚く御礼を申し上げます。

活動内容の報告、決算・予算、役員改選等について、理事会は二年連続して文書による承認となりましたが、総会については今秋の創立十五周年記念式典と同日に実施予定です。

令和二年度の初心者入門講座は、例年とは半年遅れの令和二年秋に実施し、第十四期生の志詩会が誕生しました。

昨年度から開始しました漢文法基礎講座は、去る六月に前期の全五回が終了し、引き続き六月に後期をスタートしている状況です。講演会は、コロナ禍が少し下火になったかに見えた昨年十一月に高芝麻子先生の「阿倍仲麻呂と唐詩人」の演題で実施し、百十名を超える来場者がありました。

鑑賞会A、B、Cは、幹事の皆さんのご苦勞でZOOM方式で毎月継続しています。

十月にはコロナワクチンも行き渡り、平静な環境下で、創立十五周年をお祝いしたいと願っています。

令和2年度一般会計決算書			令和3年度一般会計予算書			15周年記念事業予算書			令和2年度田原基金決算書		
区分	費目	金額	区分	費目	金額	区分	費目	金額	区分	費目	金額
収入	前年度繰越	144,052	収入	前年度繰越	299,254	収入	一般会計から	200,000	収入	前年度繰越	926,973
	年会費	774,000		年会費等	720,000		協賛金	400,000		七絶頒布等	9,560
	行事費	108,000		行事参加費	225,000		懇親会参加費	250,000	支出	七絶編集他	72,500
	その他	281,740		その他	11,000		記念品頒布等	465,000		指導者研修	0
	収入計	1,307,792		収入計	1,255,254		収入計	1,315,000	残	次年度繰越	864,033
支出	経常費	665,545	支出	庶務費	210,000	支出	案内・記念式典	495,000	令和3年度田原基金予算書		
	行事費	342,993		広報事業費	295,000		会報29号	45,000	区分	費目	金額
				教育事業費	330,000		漢詩フェスティバル	130,000	収入	前年度繰越	864,033
	その他	0		全漢連費	250,000		神奈川清韻刊行	190,000		七絶頒布等	466,000
	支出計	1,008,538		その他	150,000		記念グッズ製作	450,000	支出	七絶刊行	550,000
支出計	1,008,538	支出計	1,235,000	支出計	1,310,000	その他雑費	10,000				
残	次年度繰越	299,254	残	次年度繰越	20,254	残	残高	5,000	残	次年度繰越	770,033

令和三年度人事

☆理事

玉井幸久 古田光子 岡田泰男
 横山真吾 桜庭慎吾 室橋幸子(新)
 川上修己(新)

☆執行理事

三村公二(会長) 水城まゆみ(副会長)
 中島龍一(副会長) 飯島敏雄(新、副会長)
 高津有二(事務局長) 香取和之(事務局次長)
 瀧川智志 新井治仁 山口幸雄
 牛山知彦 蔦清昭(新)

☆監事

松井秀人 鈴木正敏

特別相談役 岡崎満義

相談役 住田笛雄

顧問 石川忠久 窪寺啓
 浅岡清明 池上一利

☆運営委員

家吉幸二 犬飼堯 岩波弘道 細江利昭
 安田茂 竹村文孝 内山義浩(以降新任)
 柴本信子(三水七歩) 高田宗治(十期)
 五嶋美代子(千支) 東島正樹(志詩)
 橋本孝一(八起) 白石信隆(詩林)

(参考)

☆特別会員 市川桃子 高芝麻子

後藤淳一 菅原武

竹林舎

玉井幸久 飯沼一之 古田光子
 住田笛雄 桜庭慎吾

令和2年度サークル活動状況

2021/4/1現在

開始年、区分	サークル名	会員数	代表者	指導者	開催月・曜日	主な会場	特記事項
H19、1期	金星会	7			偶数月・第2火	かながわ県民センター	・令和2年2月よりコロナのため例会中止。自由題で通信添削。 ・飯沼先生感謝の会10月18日。 ・自詠自書展に3名出品予定。
H20、2期及びH25、7期	三水・七歩会	8	中島龍一	古田光子	奇数月・第3水	八洲学園大学(高島町)	・添削指導は書面で実施中。令和3年度は対面での会合を考慮中。
H21、3期	好文会	8	高津有二	城田六郎	偶数月・第3木	かながわ県民センター	・令和2年2月と10月は対面で実施。その他は詩稿を指導者に郵送し、修正稿を全員に郵送する方式をとっている。例会は令和3年2月で68回となった。 ・例会に参加できない会員には通信添削の方式をとっている。
H22、4期	詩游会	11	新井治仁	住田笛雄	偶数月・第3火	神奈川県立公文書館	・令和2年2月例会を最後に実例会は中止。詩稿をメール及び書面で提出し、住田先生に批評していただき、メール交換で交流を継続中。 ・代表変更：川上→新井
H23、5期	五友会	7	飯島敏雄	住田笛雄	偶数月・第2木	かながわ県民センター、ZOOM	・令和2年度はコロナ禍のため、県民センターで予定していたすべてをZOOMで行った。
H24、6期	以文会	13	香取和之	桜庭慎吾	奇数月・第3木	かながわ労働プラザ	・11月のみ対面型例会を行ったが、コロナ禍のため他の奇数月は、メール及び郵送による会員相互の意見交換と、先生による修正を行っている。
H24、岳精会	岳精会漢詩研究会	8	家吉幸二	城田六郎 三村公二	偶数月・第2水	岳精流日本吟院総本部(川崎市)	・4、6月は会場がコロナにより使用を控えたことから、疫病に関する漢詩を批評者に送付。以後も送付方式で研究会を継続。 ・令和3年4月からは対面例会にしたい。
H26、8期	八起会	13	橋本孝一	中島龍一	奇数月・第3木	横浜市開港記念会館	・コロナ禍により、例会実施は9、11月の2回。3、5月は先生に添削をお願いして、各自が家庭学習。 ・漢詩大会(コロナ禍克服を目指して)に5名応募、2名入選。
H27、9期	九詩期会	14	山口幸雄	古田光子 川上修己	奇数月・第2木	八洲学園大学(高島町)	・コロナ禍のため令和2年3月例会を中止。5月はZOOMで開催、7.9.11月は実開催。3年1月、3月はZOOM開催。 ・結成5周年を記念して詩集を刊行した。 ・令和3年3月に新入会員1名。
H28、千代田岳精会	千代田岳精会漢詩研究部	10	犬飼堯	桜庭慎吾 香取和之	偶数月・第1木	明治安田生命ビル 新宿文化センター	・ビル改装のため、令和3年4月から新宿文化センターを予定。 ・対面での開催は2、10月のみ。4、6、8、12月は紙面による修正となった。
H28、10期	十期会	9	細江利昭	高津有二 川上修己	奇数月・第3木	横浜市泉公会堂 横浜市戸塚公会堂	・コロナウィルス禍、メール会議方式で活動中。 ・1名退会。
H29、11期	詩林会	8	白石信隆	中島龍一 飯島敏雄	偶数月・第2水	ZOOM会議	・修正終了後、有志によるZOOMちよいと一杯呑み会での雑談を楽しんでいる。
H30、12期	干支会	5	安田茂	三村公二 新井治仁	奇数月・第2木	地球市民かながわプラザ(本郷台)	・令和2年春以来、ZOOMで例会を開催。
R1、13期	令和会	10	竹村文孝	水城まゆみ 松井秀人	奇数月・第1火	かながわ県民センター	・例会6回はすべて、コロナ感染防止のため、講師より課題をいただき、添削後会員に送付。
R2、14期	志詩会	10	東島正樹	香取和之 牛山知彦	偶数月・第3月	かながわ県民センターほか	・4-6月予定の初心者講座がコロナ禍で延期、10-11月受講。12月世話人会開催。2月例会は開催できず、4月に第1回開催した。
計	15サークル	141			奇数月7、偶数月8		

漢詩鑑賞会一覧

注) 鑑賞会A・B・Cは昨年来ZOOMにて開催。状況を見て実開催に戻る予定。

名称	講師	曜日・時間	会場	問合せ先	概要
鑑賞会A	桜庭慎吾	第4木 13:15-15:45	地球市民かながわプラザ(本郷台)	瀧川智志 045-516-1234	宋詩を順次鑑賞。北宋では蘇軾、南宋では陸游、楊萬里、范成大等を予定している。
鑑賞会B	住田笛雄、水城まゆみ	第4金 13:30-16:00	県民センター	牛山知彦 080-5521-6735	中国名詩選(井波律子著)の鑑賞と同名詩の次韻での作詩。
鑑賞会C	中島龍一、新井治仁、香取和之、細江利昭	第4火 13:30-16:00	かながわ労働プラザ	香取和之 0467-48-5446	「佩文齋詠物詩選」中の七言絶句につき、毎回12首を白文から読み解く。
霧笛女子会	古田光子	偶数月、第1火 13:00-15:00	県民センター	水城まゆみ 0463-87-2657	女性詩人、女性の関係する詩を中心に解説。

注) メールアドレス、瀧川: takigawa.ty@jcom.zaq.ne.jp 牛山: koryu.kitsuan@gmail.com 香取: katorikazuyuki@gmail.com 水城: mmizuki@kfz.biglobe.ne.jp

十五期初心者入門講座開催 —新たな仲間が神漢連に入会—

本年度の初心者入門講座は、コロナの感染拡大の影響で当初予定を変更し、六月から開始し、七月二十八日に全五回の講座を終えました。参加者は最終的に十七名で、豪州からの入会もあり、例年より女性参加者比率も増加して、終始熱心な受講が続きました。

講座内容は昨秋からの新方式で第一回から七絶の規則の習得、「だれ漢」詩語集を使った実作例の紹介により実作に進むやり方を踏襲し、次に神漢連伝統の三、四名に小グループでの実作、添削を連続で実施、間に名詩の鑑賞を挟んで、多くの先生方には対面でご参加いただき、ありがとうございました。

今年の特徴としては、何名かの方は中国語を習得されていることや、既に漢詩について一定程度の素養をお持ちの方がおられ、文字通りの入門者とのレベル調整が今後の課題となることなど、フォローアップすべき諸点を次回に向け準備したいと思えます。

今後、既存の新聞社への依頼に加え、「定年時代」などローカル媒体との連携、新ホーム



講師の話聞き入る15期生

ページでの浸透を軸に会員の口コミ勧誘を平素から進めて、新会員の掘り起こしを強めていくべきです。また、現役世代向けに開催曜日、時間なども更に広く参加しやすい工夫を検討してみても感じました。

以下の陣容で十五期のサークルが発足することになりました。サークル世話人代表 川喜田康さん、世話人としては上野芳博さん、野村正彦さん、講師は水城副会長、高田運営委員(十期)です。
(新井治仁)

卒業詩中の受賞作を左記に示します。

最優秀賞

哀悼愛犬之死

野村正彦

君去何堪告別時 君去つて何ぞ堪えん告別の時

相懷魂氣在天涯 相懷う魂氣の天涯に在るを

螢光寂寞青山下 螢光寂寞青山の下

一夕靈前賦所思 一夕靈前思う所を賦す

優秀賞

阿大之歌

上野芳博

窮處野猫蒙愛憐 窮処せる野猫愛憐を蒙り

一朝許住戸扉前 一朝住むを許されて戸扉の前

悠悠食足臥何夢 悠悠食足りて臥して何をか夢みん

可羨忘憂樂惰眠 羨むべし憂いを忘れて惰眠を楽しむを

梅天閑詠

田内隆

黃梅細雨晝濛濛 黃梅の細雨晝濛々

陰鬱小齋簷滴中 陰鬱なる小齋簷滴の中

遣悶出門新竹綠 遣悶せん門を出ずれば新竹緑なり
鳴蛙閣閣夏花紅 鳴蛙閣々として夏花紅なり

初夏寸景

服部 治

薰風習習聽新蟬 薰風習々として新蟬を聴く
馥郁薔薇在眼前 馥郁たる薔薇は眼前に在り
清晝無人疎雨過 清晝に人無く疎雨過ぎたるを
綠陰煎茗意悠然 綠陰にて茗を煎じ意悠然たり

初心者入門講座を受講して

松田奈月

「五回の講座で、誰でも漢詩が作れるように」それを実現させる講師陣の層の厚さと情熱にびっくり。

漢詩の鑑賞と作詩のルールを学び、三回目には何となく自分で作れるまでに。七言絶句は二十八文字の勝負。こっちの表現を立てればあっちの平仄が立たずで苦しみました。が、きめ細かに添削指導いただき、まずは下三文字から決めるとよいなど具体的なアドバイスに救われました。

最終回に受講者全員の卒業詩十七首が揃ったのは圧巻。犬猫や友人への思い、登山の景色や日常の一コマなど、人柄や物語を感じる二十八文字に世界が広がりました。



3~4名毎の少人数指導

会員のたより

私と漢詩

八起会 中山洋子

長い人生様々な思いを心に重ねながら生きてきました。還暦も過ぎたころ、全く偶然のご縁から漢詩と出会い、それらの思い一つ一つをアウトプットしてゆく方法を見つけたことが出来ました。

思いを一つ抱えて詩語の森の中へ分け入っていきます。韻を探したり、平仄を合わせた形がこれさまよっているうちに、七言絶句の形ができてくるのです。ときには思いもかけない詩ができてきたりして。それはいつも本当に大変ではあるのですが、とても不思議で楽しい作業です。

指導の先生から「自己満足でなく皆がいいなーと思えるような漢詩を作ろう」と言われます。これからもそんな漢詩をめざして、又会の皆様の作品をたくさん読ませていただきながら漢詩とつきあっていきたいと思えます。

神漢連と私

干支会 五嶋美代子

「だれにでもできる漢詩の作り方」という本を読めば簡単に漢詩が作れるようになるわよという書道の先生の言葉に誘われて(惑わされて?)この世界に迷い込みました。一人

で格闘しましたが全くわからず、翌二〇一八年、神漢連の門を叩きました。十二期干支会に入会し、漢詩鑑賞会Cに参加するようになりました。

ところが、創作するのも鑑賞するのも謎だらけ、漢和大辞典をこんなに丁寧に「読んだ」ことはありませんでした。しかし、創作の苦ししい探求の末、世紀の大発見をしたような気分を味わうことを私は面白く思いました。先人の作品の一並びの漢字の向こうに、ありありと浮かんでくる映像や、切々と訴えてくる心情や、肌に伝わってくる空気を感ずることを楽しく思いました。

神漢連に入会してからわかったことは、ここでの出会いは古の詩人とだけではなく、素晴らしい生身の会員の方々ともあったことでした。深く幅広い見識をお持ちの人生の達人が勢揃いしている集団は、世にも稀ではないかと思いました。これからもこの神漢連で上等な香りを聞かせていただけることをこの上なく幸せに思っています。

石川芳雲先生追悼

相談役 住田笛雄

桜の美しい季節がやって来た。桜が沢山咲き乱れて美しいのは、宿河原付近の二ヶ領水の堤であろう。堤の遊歩道を歩くと、桜が、ほとんど目の高さか、ほんの少し上の位置で咲き連なる様に、当に花の雲の中を歩いている様な気分になる。

毎年、この季節になると、神奈川県漢詩連盟仲間楽しんで花見の宴が思い出される。連盟の役員をお願いしていた、日本でも有数の書道家、石川芳雲先生が、この近くの多摩高校の前にお住まいで、宿河原駅前に昼過ぎに、有志数人で集まり、そこから下流方向に散策し、花見を楽しんだ。

明の高啓の詩、「胡隱君を尋ぬ」の、水を渡り復た水を渡り、花を看、還た花を看る。春風江上の路、覚えず君が家に到る。はご存知の処だが、散策の有り様は、当にこの様であった。

その後で先生のお宅に上がり込んで、午後いっぱい、楽しく飲みかつ語らった。先生は、優れた漢詩人でもあられ、全国コンクールで文学部科学大臣賞を取られた折には、その賞状をご自分で書かれる羽目になったことも懐かしい思い出である。その詩は、

黃山初陽

拂曉冒寒孤倚筇 東天漸白泛奇峰

忽穿雲海一條箭 先射山巔蟠屈松

というものだが、王維宛ら、詩中に画があること、我々凡人の及ぶ処ではない。

残念ながら、先生は、昨年の夏、九十歳でお亡くなりになってしまった。今年は宴の思い出を心に抱きつつ、花見のみを楽しみ、かつ、川面を流れる花びらの花筏に、先生を偲ぶ今の気持ちをお話したいと思う。先生、本当にお世話になり、ありがとうございました。

九詩期会結成五周年記念詩集刊行

九詩期会 山口幸雄

九詩期会は令和二年九月に結成五周年を迎え、コロナのために予定より遅れましたが、令和三年三月に記念詩集を刊行しました。

会員一人四首の漢詩と、漢詩についての想いや過去の思い出を綴った漢詩随想を基本に、五年間の活動を振り返った「トピックス」や年表などの記録も加えて、漢詩の外にも読み応えのある内容になったと自負しています。

さらに書家である二人の会員、諸星星郷氏及び牛山香流氏からは、様々な書体を駆使して、各会員の詩一首を揮毫していただき、漢詩と一緒に書も楽しんでいただけます。

わたしが詩集を贈った友人は「漢詩のことはよくわからないが、漢詩についてみんなであれこれ楽しそうにやっていることはわかった。」と言ってくれました。

ご希望の方には一冊五百円でお分けしております。九詩期会山口(bxc01076@nifty.com)まで御連絡下さい。(残部少です。)

(A5判百十一頁。表紙・裏表紙・扉は牛山香流デザイン。)



「愛でる」

八起会 妹脊真理子

「愛でる」とは①美しさを味わい感動する②ほめる・感心するという意味。この言葉を知っていても実感することはありませんでした。

家と職場の往復しかない生活の中で、漢詩を始めてから道端に咲いている草花に自然と目がいき「可愛い花！漢詩にしたい！」と生活の中に「愛でる」という時間ができたのです。コロナが始まった昨年、友人からワタの種が届きました。必要最小限の移動しかできない中、家で育て始め、ぐんぐんと成長するその姿に元気をもらっていました。芽が出て、花が咲き、ワタの実となるこの姿を漢詩に詠みたい！とは思いましたが、未だにできていません。

もう一つの②について。自分で言うのもおかしな話ですが八起会の仲間に私は、愛でられていると思っています(きつと)！。初心者講座を受講したのが二十代半ばでした。八起会として今でも続けられているのは、私の詠んだ詩をいつもいつも褒めてくれるからです。昨年、八起会の初期代表を務めてくださった方との別れがありました。今でも思い出す「妹脊さんにしか詠めない詩を詠んでいるね。とてもいいね！」という言葉。大切な仲間でした。八起会で一緒に勉強できたこと、感謝を伝えたいです。ありがとうございます。

中国の詩詞と日本の漢詩

陳興

中国の詩詞創作では、多く人は現代文の思想で創作している。なぜなら、現代文教育を受けてきたからである。古文と現代文の教育の割合は、およそ古文二〇%、現代文八〇%。よって、このような創作現状になっている。しかし最近、牛山執行理事より聞いて驚いたことがあった。日本漢詩では、同字重出は禁止だといわれた。唐朝より今まですでに千三百年も経過しているし、多くのことが変化している。それに唐朝詩人たちは字の重複は禁忌でもなかった。字の重複は避ければ良い詩が生まれるわけでもないのである。

良い作品はたつぷり創作練習のうえ、読書の勤勉が繋がっている。もちろん、多く旅をしてその履歴も重ねていつか良い詩が生まれるかもしれない。しかし、詩が一首でも千首でも詩人といえるのである。そのため、詩人として良い作品を作り出す責任がある。

日本の漢詩が絶滅危惧種と多くの日本人が言っている。しかしそんなことにはならないと思う。一九八八年生れの早川太基先生という日本人詩人がいる。今神戸大学で大学教師に就いている。その詠んだ漢詩が中国詩詞世界で認められている。雅号は蓉堂。実はこの人は石川忠久(岳堂)先生の弟子で、「堂」字を継承している。これはまさに日本漢詩が絶滅しない証拠である。白楽天はこう詠んだ。「野火烧不尽、春風吹又生」。

「令和二年度
扶桑風韻漢詩大会」
神漢連会員活躍

優秀作品

湖畔即事

高橋純子

松風謾謾送清涼

松風 謾々として 清涼を送り

碧海渺茫潮氣香

碧海 渺茫として 潮気香し

鷗語數聲回首處

鷗語 數聲 首を回らす処

漁舟一片入斜陽

漁舟 一片 斜陽に入る

秀作

湖上舟遊

山口幸雄

素手把橈操小舟

素手 橈を把つて 小舟を操り

紅唇吐息憩中洲

紅唇 息を吐いて 中洲に憩う

佳人一去今何處

佳人 一たび去つて 今は何れの処か

懷舊湖邊已晚秋

懷旧の湖辺 已に晩秋

佳作

琵琶行妓女舟中吟

大谷明史

潯陽江上夜停舟

潯陽江上 夜舟を停む

傍見兩三輕舫浮

傍らに見る 兩三の輕舫 浮かぶを

坐想京城昔年事

坐に想う 京城 昔年の事

琵琶欲撥月華秋

琵琶 撥せむと欲す 月華の秋

入選作品

滿州葫蘆島乘遣返船

岩村順一

艱辛始到碼頭邊

滿州 葫蘆島にて 遣返船に乗る

困憊窮民默上船

艱辛 始めて到る 碼頭の辺

祖國眼前生疫病

困憊せる 窮民 黙して上船

幾多溘逝淚潸然

祖國眼前 疫病生ず

泛舟游

五嶋美代子

早晨淡靄放輕舟

舟を泛べて遊ぶ

鼓柁孤行碧似油

早晨 淡靄 輕舟を放つ

停息湖心天籟裏

鼓柁 孤行 碧油に似たり

前山倒影入雙眸

湖心に停息す 天籟の裏に

奉母遊函嶺泛蘆湖

杉森千枝美

納涼此地第三回

母を奉じて 函嶺に遊び 蘆湖に泛かぶ

話舊倚舷風快哉

此の地に納涼するは 第三回

母鬢雙瞳吾亦爾

旧を話すに 舷に倚れば 風快哉たり

明年強健更重來

母の鬢 雙瞳く 吾も亦 爾かり

夏日舟遊

水城まゆみ

避暑蘆湖泛畫船

避暑の 芦湖 画船を泛べ

水光激灑弄晴妍

水光 激灑として 晴妍を弄す

檣頭颯颯涼風渡

檣頭 颯々 涼風渡り

一朵芙蓉開碧天

一朵の芙蓉 碧天に開く

令和三年の全国漢詩大会の予定

奮って応募しよう!

漢詩応募規定・用紙は、各大会のホームページからも入手できます。

●令和三年度全日本漢詩大会

石川大会

九月二十五日 表彰式 小松市

詩題 「園・苑に関するもの」

応募完了

●令和三年度全日本漢詩連盟「扶桑風韻」

漢詩大会

詩題 「舊跡、古跡」

応募期間 八月一日～十月三十一日

応募資格は全日本漢詩連盟の会員

●第二十四回全国ふるさと漢詩コンテスト

十一月二十七日 表彰式 多久市

詩題 「橋、または、橋梁」

応募完了

●第六回漱石記念漢詩大会

大会は開催されずHP上で入賞者公表

自由題

応募完了

●第十三回諸橋轍次博士記念漢詩大会

十一月七・八日 二条市

自由題

応募完了

神奈川県漢詩連盟 令和三年の行事予定

カレンダーに予定を記入しましょう

●創立十五周年記念式典・総会・講演会(懇親会は未定)

期日 十月十四日(木)

時間 午後一時～四時三〇分(総会、式典、講演会)

場所 神奈川近代文学館ホール(総会、式典、講演会)

式典

総会 令和二年度事業報告、令和三年度活動計画、他

漢詩講演会 市川桃子先生「三国志」の英雄曹操の悲哀」(YouTube録画配信も計

画中)会員以外も聴講可(申込不要)

●創立十五周年記念行事

本会報の二頁～八頁に紹介しています。参照下さい。

訃報

■神奈川県漢詩連盟の会員 大森正泰氏は
令和三年二月二十四日に逝去されました。
(享年八十九歳)

ここに謹んで哀悼の意を表し、
ご冥福をお祈り申し上げます。

■神奈川県漢詩連盟の会員 齋藤護氏は
令和三年六月二十八日に逝去されました。
(享年七十九歳)

ここに謹んで哀悼の意を表し、
ご冥福をお祈り申し上げます。

■神奈川県漢詩連盟の会員 萬谷美次氏は
令和三年五月六日に逝去されました。
(享年八十六歳)

ここに謹んで哀悼の意を表し、
ご冥福をお祈り申し上げます。

■神奈川県漢詩連盟の会員 城田六郎氏は
令和三年七月二十七日に逝去されました。
(享年八十八歳)

ここに謹んで哀悼の意を表し、
ご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

本会報の原稿を書いている七月末は、日本人選手の大活躍で人々は東京オリンピックに熱狂し、その一方コロナウイルスはデルタ株により感染者数が過去最大になっています。「神漢連創立十五周年記念日」の十月十四日にはコロナ禍がほぼ収まり、皆で創立記念を安心してお祝いできることを祈ってやみません。

「十五周年記念行事特集」は会員の皆様が、各記念行事の趣旨・内容を把握され、各行事に参加し楽しむ為の手引きです。十月十四日の記念式典・漢詩講演会への出席、十月十二日のオンライン吟行会への参加、自詠自書展の見学を宜しくお願い致します。また、記念グッズとして石川忠久先生直筆のエコバッグとクリアファイルを購入頂き、そして「七言絶句ここから一步(下)」をお求めください。

今年も初心者入門講座が開かれ、第十五期の皆さんが新たに我々の仲間となりました。初々しい卒業詩の最優秀・優秀作、受講者の弁を掲載しています。神漢連への入会の頃の初心を思い出したいものです。(香取和之)

